

令和7年度 横越中学校経営方針

校長 中川 秀太

1 教育目標（目指す生徒像）

進んで学び 協力し合い 粘り強く努力する生徒



・明るく元気な教職員
・生徒を大切にする教職員
・他から信頼される教職員
・学び、努力し続ける教職員
・謙虚な教職員
・仲間と協力できる教職員
・地域ともに歩む教職員
・授業で勝負できる教員

2 目指す横越の子どもたちの姿

◆ 自ら学び、自ら考え、積極的に行動する生徒
◆ 相手の立場で考え、協働する生徒
◆ 目標に向かって粘り強く努力する生徒



3 重点事項

(1) 学びに向かう生徒の育成

授業は、「学習課題とまとめ、振り返り」を重視した、教員と生徒が目を合わせながら行う対面活動を基本とする。「学習三原則・横越授業スタンダード」を基に、学習規律を高め、学習環境を整え、丁寧かつ分かりやすい個に応じた学習指導によって、生徒の学習意欲と学力の向上を図る。また、「横越GIGAスタンダード」を徹底し、ICT機器等は、必要に応じて教育的効果が期待できる場面や形で活用する。

さらに、放課後学習室の設置や基礎基本的な家庭学習課題の提示、定期テスト前の質問教室、家庭学習相談等により、主体的な家庭学習習慣の定着に取り組む。

(2) 生徒理解を基にした組織的な生徒指導の推進

教職員は、生徒や保護者の思いや願いを汲み取り理解した上で、日々の対話や行動観察、教育相談等による生徒理解及び傾聴と共感による生徒や保護者とのラポート形成に努め、誰もが安心して過ごすことができる、居心地のよい学校・学年・学級・各種集団作りに取り組む。

また、いじめ、不登校、問題行動等の未然防止及び解消のために、教職員間で迅速に生徒指導情報の共有を図り、必要に応じて外部機関等と連携しながら、温かく粘り強く生徒や保護者の対応に当たる。

(3) 支持的風土を醸成する特別活動の推進

支持的風土を醸成するためには、生徒が互いに尊重し合い、協働する機会を増やすことが大切である。生徒が活動する場面では、意図的に相互理解を深める活動（グループワークやディスカッション）を取り入れ、互いの個性や考え方を尊重する態度を育成する。また、体育祭や合唱祭、いじめ見逃しゼロ人権集会等の共通目標をもつ活動では、生徒一人一人に役割をもたせ、目標に向かって協働する体験を重視するとともに、安心して意見や考えを発表できる環境を整え、生徒一人一人の自己肯定感を高めていく。

(4) 生き方を考えるキャリア教育の推進

キャリア教育について、職業教育との関係や違いを確認し、学習指導要領に位置づけられたキャリア教育の理念の下、体験活動を充実させながら、社会的職業的自立に向けての基盤となる能力や態度の育成に努める。

また、「各学年間の活動が系統的に構成されているか」「キャリア教育として行われている活動が各教科間で学びや気付きが往還され、生徒自身が自分の成長と変容に気付くことができるか」という視点から改善等を図りながら、学校で行われる全教育活動がキャリア教育として機能していくよう全教職員で計画的・組織的に取り組む。